

第7章

粉飾決算の見破り方

1 「赤字隠し」の特徴と見破り方

中小企業の粉飾決算で最も多いのは、赤字を黒字にみせかける「赤字隠し」です。

赤字隠しを行なう目的は、金融機関や取引先に対して、苦しい経営実態を知られないようにすることです。

赤字隠しには、「損益計算書の営業利益ないし経常利益を黒字にする一方、営業活動キャッシュフローはマイナスになる」という特徴があります。

したがって、営業利益が赤字の決算書は、粉飾している可能性は低いです。目的はあくまでも営業利益を黒字にして、金融機関の融資審査を通りやすくすることにあるからです。

粉飾決算は、営業利益を控えめの金額で黒字にしていることが多いです。大胆な粉飾操作には抵抗を感じる経営者が多いのかもしれませんが。

中小企業の粉飾決算は、営業活動キャッシュフローがマイナスの場合が多いという点も重要な特徴です。

預金残高まで粉飾するのはハードルが高いため、多くの場合、営業活動キャッシュフローには赤字の実態が表われるのです。

(1) 架空売上・売上の先食い計上

架空売上は、売上と利益を大きくみせるために、実際に発生していない架空の売上を損益計算書に計上するものです。売上伝票の数字入力によって簡単にできてしまう粉飾です。

架空売上を計上するには、相手勘定が必要になりますが、多くの場合、売掛金が使われます。

図表7-1 架空売上はどこに計上されるか

P / L	
売上高	↑100
B / S	
資産	負債
売掛金	↑100
	純資産

架空売上を計上すると、売掛金が増える

架空売上とは多少意味合いが異なりますが、売上を上乗せする粉飾でよく使われるものに「売上の先食い」があります。これは、注文を受けたが納品が完了していないなど、本来なら翌期に計上すべき売上を当期に計上するものです。

架空売上や売上の先食いでは、売上を上乗せするため、数値の動きが不自然になります。

次の(a)～(c)にあてはまる場合は、粉飾を疑う必

要があります。

- (a) 売上高総利益率が大幅にアップしている
- (b) 売上債権回転期間が長期化している
- (c) 期末月の売上が例年と比べて異常に高い

架空売上と売上債権回転期間の関係を示すと、

図表7-2のようにになります。

図表7-2 架空売上と売上債権回転期間の関係

	売上債権 回転期間(日)		売掛金		売上高
粉飾前	73.0	= (100	÷	500) × 365
粉飾後	121.7	= (200	÷	600) × 365
増減	48.7		100		100

架空売上を100計上した結果、売上債権回転期間が約49日延びた

粉飾が疑われる場合、勘定科目内訳明細書で売掛金の相手先を確認します。売掛金に架空売上を計上しているなら、相手先の名称が記載されない「その他」の金額が前期に比べて増えている可能性があります。

ただし、勘定科目内訳明細書の売掛金については、50万円以上は各別に記入するというルールがあることから、按分計算を行なって通常の売掛金に割り振っていることも考えられます。

粉飾は期末に行なわれることがほとんどです。そこで、期末月の売上が例年と比べて高くなっていないか、法人事業概況説明書をみて確認します。

図表7-3 期末月の売上に着目（法人事業概況説明書）

月別	売上金額
4月	100
5月	105
1月	95
2月	90
3月(期末)	150

期末の売上金額が異常に高い
→ 架空売上や売上の先食い計上の可能性

(2) 在庫の水増し

期末在庫に実体のない在庫を追加する（数字を水増し）することで、利益を大きくみせる方法です。

売上原価の計算式は、「期首在庫 + 期中仕入高 - 期末在庫」です。よって、期末在庫を水増しすれば、売上原価が減少し、利益が増えます。

図表7-4 在庫の水増しはどこに計上されるか

P / L	
売上高	
期首商品棚卸高	
当期商品仕入高	
期末商品棚卸高	↑ 100
売上原価	↓ 100
売上総利益	↑ 100
B / S	
資産	負債
棚卸資産 ↑ 100	
	純資産

在庫を水増しすると、棚卸資産が増加、売上原価が減少、売上総利益が増加

棚卸資産は、売掛金や貸付金と違って相手が存在しないので、簡単に粉飾することができます。期末在庫の水増しは、中小企業で最もよくみられる粉飾の手口です。

在庫を水増しすると、売上高総利益率が高くなる一方、棚卸資産回転期間が長くなります。

図表7-5 在庫の水増しと棚卸資産回転期間の関係

	棚卸資産 回転期間(日)		棚卸資産		売上高
粉飾前	146	= (200	÷	500) × 365
粉飾後	219	= (300	÷	500) × 365
増減	73		100		0

期末在庫を100水増しした結果、棚卸資産回転期間が73日延びた

そこで、売上高総利益率と棚卸資産回転期間の推移をチェックし、さらに業界平均値との比較を行なって異常がないかを確認します。

直近決算の売上高総利益率が極端にアップしている場合は、前の期の売上高総利益率を使って利益を再計算してみると赤字の実態がつかめます。

なお、デッドストックを抱えると、中身のない在庫を計上しているのと同じ状況になり、資金繰りが悪化します。倉庫や階段、廊下などに、返品によるデッドストックが山積みされていないか、営業担当者に目視確認をうながすことも重要です。

(3) 仕入の計上先送り

期末月の仕入をなかったことにして（翌期に計上を先送りして）、利益を大きくみせる方法です。仕入の計上を先送りすると、相手勘定である買掛金などの残高が本来の金額より少なくなります。

図表7-6 仕入の計上先送りはどこに表われるか

P/L	
売上高	
期首商品棚卸高	
当期商品仕入高	↓ 100
期末商品棚卸高	
売上原価	↓ 100
売上総利益	↑ 100

B/S	
資産	負債
	買掛金 ↓ 100
	純資産

仕入の計上を先送りすると、買掛金が減少、売上原価が減少、売上総利益が増加

この粉飾を行なうと、売上高総利益率が高くなり、買入債務回転期間が短くなります。

図表7-7 仕入の計上先送りによる変化

	買入債務 回転期間 (日)		買掛金		売上高	
粉飾前	146	= (200	÷	500) × 365
粉飾後	73	= (100	÷	500) × 365
増減	-73		-100		0	

仕入計上を100先送りした結果、買入債務回転期間が73日短くなった

法人事業概況説明書には、月別の仕入額が記載されているので、期末の仕入が売上などに比べて極端に少なくなっていないか確認します。

また、この粉飾を繰り返している会社は、決算月の翌月（期首1か月目）の試算表で、売上原価が急増し、赤字になっていることがよくあります。試算表を入手できる場合は、確認してみましょう。

(4) 費用を仮払金に計上

支払済みの費用を、本来の費用科目で処理せず、仮払金に計上して、利益を膨らませる方法です。仮払金に費用を計上すれば、会社はいくらでも利益を出すことができます。

仮払金は、すでにお金を支払ったものの、どの勘定科目で処理すればよいかわからないので、確定するまでの間、一時的に使用する科目です。

ある意味、「何でもあり」の科目ですから、多額の仮払金を計上している場合は、経理処理が杜撰というだけでなく、実際に利益を粉飾している可能性を疑うべきです。

内容がはっきりしない仮払金については、期中の増加額をあえて「費用」と考え、利益から差し引くのが妥当です。

(5) 減価償却費の過少計上

減価償却費を意図的に少なく計上して、利益を大きくみせるものです。

法人税法上、損金に算入する減価償却費は、損金経理を前提として、償却限度額の範囲内で会社が自由に決めることができます。

このため、中小企業では、業績が芳しくないときに、減価償却費を少なめに計上して赤字を隠そうとすることがよくあります。

粉飾の見破り方としては、別表16で「償却不足額」を確認します。本来、この欄をみれば耐用年数に沿った減価償却費を計上しているかどうか

図表7-8 減価償却費と減価償却資産のバランスをみる

(百万円)

P/L			B/S		
科目	2019年	2020年		2019年	2020年
減価償却費	10	10	建物	65	69
			建物付属設備	16	23
			構築物	2	3
			工具器具備品	15	22
			車両運搬具	5	13
			小計	103	130
			土地	20	20
			有形固定資産	123	150

減価償却資産が増加しているのに、前期と同じ金額はおかしいのでは？

わかるはずなのですが、償却不足を記載していない場合もあります。

償却不足の有無にかかわらず、行なうべきことは、B/Sの減価償却資産と減価償却費のバランスをチェックすることです（図表7-8）。

また、「減価償却率」が低すぎないか、推移をチェックするのも有効です。

$$\text{減価償却率(\%)} = \frac{\text{減価償却費}}{\text{有形固定資産} - \text{土地} + \text{減価償却費}}$$

別表16を2期分、チェックするなどで、計上漏れがみつかることもよくあります。

(6) 役員報酬による利益の調整

役員報酬をできるだけ低く設定して、利益を大きくみせる一方、役員報酬の不足額を役員に貸し付けることで帳尻を合わせる方法です。

会社に役員からの借入金（役員借入金）がある場合は、それを返済することで役員報酬の不足を補うこともあります。

中小企業では、こうした処理は珍しくありませんが、本来、必要な費用を資産（貸付金）に計上して利益を膨らませるのですから、利益粉飾の1つといえます。

(7) 支払利息の計上漏れ

借入が多い会社や、ノンバンクから高利で借入している会社では、支払利息をきちんと計上していないことがよくあります。支払いが遅れている利息を計上しなかったり、棚卸資産や固定資産に支払利息を計上して、利益を水増しするのです。

粉飾の見破り方としては、支払利息を借入金残高（平均残高）で割ることによって平均借入レートを算出し、一般的な金利水準との乖離がないかチェックします（計算式は33頁に記載）。

また、勘定科目内訳明細書の「借入金及び支払利子の内訳書」で、借入先、期末残高、期中の支払利子額、利率の明細を確認します。

なお、平均借入レートが高すぎる場合は、簿外債務を抱えている可能性もあります。

2 見破るのが難しい「循環取引」

循環取引とは、複数の企業同士で、粉飾を目的とする取引を行ない、売上や利益を水増しするものです。

循環取引を見破るのは容易ではありませんが、決算月の異なる関係会社同士で商取引を行なっている場合は、疑う必要があります。

ポイントは決算月の違いにあります。循環取引に手を染めている会社は、月が一致する試算表を外部に提出することができません。

3 その他注意すべき勘定科目

(1) 現預金

経理処理の杜撰な会社では、小口現金の残高が実際の金額と一致しない状態のまま放置していることがあります。営業の実態からみて不必要と思われる現金を計上している場合は、意図的な粉飾も疑われます。

また、不渡りになった小切手をそのまま計上していることもあります。

(2) 売掛金

回収不能になった不良債権が売掛金に計上されていることがよくあります。

勘定科目内訳明細書で、同一の相手先に対する売掛残が複数年に渡って変動していなければ、不良債権と考えてほぼ間違いないでしょう。

(3) 建設仮勘定（有形固定資産）

建設仮勘定は、建設中の建物など、完成前の有形固定資産への支出を仮に計上する科目です。

減価償却を行なう必要がないため、建物が完成していてもそのままにしていたり、本来費用計上すべき修繕費などを建設仮勘定に計上しているケースもあります。

(4) 有価証券などその他の投資勘定

株式やゴルフ会員権、リゾート会員権などで多額の含み損を抱えていることがあります。

勘定科目内訳明細書で保有銘柄を調べることができます。

(5) 仮受金

仮受金は、入金の内容がわからない場合に、一時的に使用する負債科目です。

仮受金には、表に出せない高利の借入などを計上していることもよくあります。

図表7-9 財務粉飾のチェックポイント一覧

	チェックポイント	疑われる内容
貸借対照表	① 多額の小口現金を計上していないか	実際よりも多い現金を計上したまま放置
	② 売上債権回転期間が長すぎないか	売上の先食い計上、不良債権の発生
	③ 棚卸資産回転期間が長すぎないか	期末在庫の水増しによる赤字隠し、不良在庫の発生
	④ 仮払金の金額が大きすぎないか	実質的な費用や外部に知られたくない貸付金などを計上
	⑤ 有形固定資産の金額が大きすぎないか	建設仮勘定を使った修繕費などの資産計上
	⑥ 代表者や関係会社への貸付金が増加していないか	役員報酬の不足分や関係会社への赤字補てん金を貸付金に計上
	⑦ 有価証券など投資勘定の金額が大きすぎないか	株式などの含み損、資金化困難な資産を計上
	⑧ 繰延資産の金額が大きすぎないか	経費の資産計上による赤字隠し
	⑨ 買入債務回転期間が短すぎないか	売上原価の計上を先送り
	⑩ 買掛金や未払金などが多すぎないか	資金繰りの悪化によって支払いを滞納
	⑪ 黒字なのに、借入が増加していないか	粉飾を施しつつ、赤字資金を金融機関から借入
損益計算書	① 売上高の伸び率が高すぎないか	架空売上や売上の先食い計上
	② 売上高総利益率が高すぎないか	期末在庫の水増し、仕入の計上先送り、架空売上の計上
	③ 役員報酬の金額が少なすぎないか	役員報酬を無理やり減らして黒字化
	④ 減価償却費の計上額が少なすぎないか	償却費の過少計上による赤字隠し
	⑤ 借入金に比べ支払利息が少なすぎないか	未払利息の計上漏れ、在庫等の資産に利息を計上
	⑥ 借入金に比べ支払利息が多すぎないか	簿外債務を抱えている、ノンバンク等から借入がある
	⑦ 前期損益修正を頻繁に行なっていないか	杜撰な経理処理、粉飾体質
	⑧ 営業外損益・特別損益の計上は適正か	経常利益をよくみせるための科目振替
	⑨ 法人税等は利益に見合っているか	経常利益を黒字にするため、消費税や延滞税を法人税等に計上